

## 5歳児健診のあり方を評価～アンケート調査に向けて～

## 令和元年度第1回母子保健対策小委員会

- 日 時 令和元年9月10日（火） 午後1時30分～午後3時
- 場 所 鳥取大学医学部附属病院 脳とこころの医療センター カンファレンス室
- 出席者 12人  
前垣・大野・岡田・笠木・汐田・長田・北垣・後藤各委員  
県家庭支援課：田中係長、岡田保健師  
健康対策協議会事務局：岩垣課長、澤北主事

## 議 題

## 1. 5歳児健診アンケートについて

5歳児健診の意義を再確認するため、5歳児健診に関する調査を実施したいと考えている。ある町が、5歳児健診を軸にして時系列的に見た結果がある。対象児童119人のうち、5歳児健診で問題指摘を受けた子が31例であり、その31例に関して3歳児健診での問題指摘が22例あった。このことから、3歳児健診でもかなりの気づきがあることがわかる。31例の内訳は、事後相談24人、医療受診7人であった。事後相談24人の小学校入学後の適応や問題点をみると、問題なしが6人、支援・配慮が18人であった。18人のうち小学校入学後の医療受診が5人、不登校が2人であった。また、5歳児健診から医療受診になった7人は、小学校入学後全員何らかの支援・配慮を受けていた。5歳児健診で指摘のなかった子は3歳児健診でもほとんど指摘がなく、小学校入学後に何らかの支援・配慮を受けているのは2人であった。

結果より、5歳児健診で何らかの気づきはほとんどあり、うまく支援にまわると適応のよい子も多くいることがわかった。5歳児健診とその後の指導や支援、学校への連携など事後システムがうまく働くと、とても良いものではないかと思う。

今回は1町の結果なので、他市町村でも同様の調査を実施したいと考えている。5歳児健診で指摘のあった子や小学校入学後に何らかの問題が起こった子たちを時系列でみていくことで、5歳児健診の役割やその後の相談事業の役割が見えてくるかと思う。可能な限りご協力いただける市町村で今年度実施したい。

## (委員より意見)

・乳児健診～5歳児健診まで電子媒体等で入力し、一つの情報としてつなげているのか。

（伯耆町）住民基本台帳と連動した健康管理システムに入力しているが、すべての情報が入力できるわけではないので、実際の指摘の内容など詳細については別ファイルで管理している。健康管理システムはおそらく多くの市町村で使用されているが、項目を網羅していないので、それだけでの管理は難しい。また、伯耆町では就学支援検討会という教育委員会と連動したシステムをつくり、5歳児健診の間診票に教育委員会と情報を共有することに関しての同意欄を設け、保護者の方に同意の上で5歳児健診を受けていただいている。

・就学の時点で家族と教育部門と保健とが情報共有をし、不安なく就学でき、就学後の支援がで

きることも一つの効果としてみる必要があるの  
で、そのつながりは大事だと思う。

- ・ 県教育委員会と家庭支援課で、ある程度5歳児健診を活かしていくための協議や連携があるとスムーズかと思う。
- ・ 5歳児健診のフォローアップは、市町村単体だと難しい部分がある。医療機関のフォローアップを受けられないグレーの子たち向けによいこの教室を開設した。立ち上げにあたっては発達障がい者支援センターやNPO法人に協力依頼をしたが、協力は難しいとの回答や一度は協力いただいたが、撤退したいとの話がでてくる。県の後方支援があるとありがたい。
- ・ 入学前の園児には、教育委員会があまり関与しないところがあるが、国は3歳児健診から一緒に関わることを県教委に推奨しており、5歳児健診はさらに就学に近くなるので県レベルでつながっていたほうがよいと思う。  
→このことに関しては、10月に開催される県教委と県医師会との連絡協議会において、岡田委員よりお話いただく。

各市町村で5歳児健診、5歳児発達相談でピックアップされたハイリスクの子、グレーの子、保護者の希望なく未受診、未相談となっている子たちに対して、各市町村の事後フォロー体制の実態を把握することとした。意向調査とあわせて実態調査を県家庭支援課が行う。

## 2. 令和元年度5歳児健診研修会について

昨年度の5歳児健診研修会の際のアンケート結果では、どの職種でも実際の支援の様子が見えるようなもの、事例を踏まえたものを研修会の内容として取り上げてほしいとの意見が多くあがった。事後フォローを丁寧に行っている市町村の実際の事例や取り組みの状況を発表いただくことはどうかとの県家庭支援課からの提案に対して、委員より以下の意見があった。

### (委員より意見)

- ・ 5歳児健診を各市町村どのようなシステムで就学の支援につなげているのか、取り組みを紹介いただき県全体で共有する。
- ・ 健診の場で何が出来るかも少し取り上げていただけるとありがたい。保護者の中には全く問題意識のない方もいるので、健診の場で具体的にどのようなアドバイスをするのがよいのか講演やパネルディスカッションなどをしていただきたい。
- ・ 教育委員会にも声かけして、就学をターゲットにした健診であることを理解してもらいたい。
- ・ 就学前健診と5歳児健診は連動しておいたほうがよい。独立でするよりは、情報共有してけるとより5歳児健診が活かされるのではないかな。
- ・ 市町村の規模によって異なるところもあると思うので、今年度市町村から発表いただくにしても、一つが市であればもう一つの発表者は町村とするなどの工夫をしたい。
- ・ 保健師でもよいが、事後フォローに関わっている相談員や教育委員会の指導主事などそのような方に実際の取り組み、就学へのつながりについてお話いただいてもよいのかもしれない。
- ・ 米子市では、保護者が気になったらピックアップしていく形になるので、意識の高い保護者が気にして受けるという傾向になってしまう。ピックアップの形にするのであれば、保育士が日頃から保護者と情報共有をし、信頼関係を築いてから話を上手に持って行けるようにしないとうまくピックアップできないのではないかな。
- ・ 米子市の一番の課題は「どのように学校につなげていくか」であると思う。就学後にリスクのありそうな子をどのように学校につなげていくのかがうまくできると良くなると思う。まずは、ピックアップの体制からきちんとしなければいけない。
- ・ 県と市町村の現状としての報告といくつかの市町村に取り組みを紹介してもらった内容ではいか

が。現場の方は、他がどのようなことをしているか、どのように教育につなげているのかが知りたいと思う。

- ・現場としては、具体的な対応を知りたいので、発達支援に関わっている団体に具体的にどのような対応をしたらよいか話をしてもらいたいかもしれない。

委員から出た意見をもとに研修会の内容を検討し、2月の開催を目処に準備を進めていく。

### 3. その他

#### ○母子保健情報の利活用について（県家庭支援課より）

国よりデータヘルス改革が進められており、2020年度に向けて提供を目指す8つのサービスの中に「乳幼児期・学童期の健康情報」が含まれている。具体的には、乳幼児健診の結果や予防接種の接種歴が該当する。

現状の課題として、①健診内容や記録方法の標準化されたフォーマットがなく、管理や比較が困難であること、②受診状況や結果を紙台帳で管理している場合が多く、効果的、効率的な情報の管理、活用ができないこと、③引越しや子どもの成長にあわせて、記録が関係機関間（地域保健から学校保健など）で適切に引き継がれる仕組みが無いこと、の3点があげられている。

データヘルス改革では、子ども時代に受ける健診や予防接種等の個人の健康情報歴を一元的に確認できる仕組みの構築として、マイナンバーを活用して、自分の過去の健診情報や予防接種状況を確認できるようにすること、個人情報に配慮しつつ関係機関間での適切な健康情報の引継ぎ、将来

的な疾病リスクと関係分析や地域診断などに活用することを目指している。

具体的には、市町村で把握した健診情報を電子データ化、自治体中間サーバーに本登録し、引越しなどで転出・転入があった際には、情報が転居先の市町村に引き継がれるようにする。個人としては、マイポータルを活用し、健康情報歴を一元的に確認できるようにする。

電子的に記録・管理する情報のうち、電子化が望ましいとされる標準的な電子的記録様式と最低限電子化すべき情報が示された。最低限電子化すべき項目と今の鳥取県の乳幼児健診マニュアルや健診票を照らし合わせたところ、以下の通り改正・修正が必要な点があった。

- ・1歳6か月健診の胸囲の項目を追加
- ・判定区分が現在、県で使用しているマニュアルと異なる。現行の7区分から、異常なし、要精密、要経過観察、要医療、既医療の5区分に変更する。
- ・新たな項目にあわせて、健診票も作成し直さなければならない。鳥取市が案を作成したものを県が確認、追記し全市町村へ照会。市町村からの意見を集約しながら改訂版を作成していく。

#### ○教育委員会との連携について（笠木委員より）

- ・小委員会に県教委や地教委の担当者に出してもらい、2回目の小委員会を開催し、つながりや連携の部分を強めていけたらよいのではないかと。→県家庭支援課より県教委、地教委に確認する。

次回の小委員会は年明け1月頃に開催予定。